

企画・セッション その他企画・各種会議

10月7日(金) 9:00～11:00 第6会場(OMO7旭川 3F 彩雲の間)

ソーシャルワーカーフォーラム

災害時の医療ソーシャルワーカーの役割と被災地への支援 ～災害時に備えた社会資源マップの整備と 被災地ソーシャルワーカーの支援～

全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会では、東日本大震災、熊本地震以降、被災地支援の中で、赤十字医療ソーシャルワーカーが果たせる役割は何か、ソーシャルワーカーの視点から赤十字の特性を生かし、平時の支援が有事に活かせるような地域包括ケアシステム構築実現に寄与することはできないかと考え、災害支援プロジェクトと地域包括ケアプロジェクトを立ち上げて活動してきた。

災害支援においては、被災地への支援として、避難所生活や生活再建期における生活支援の必要性。もう一つの具体的活動として発災直後の医療現場において医療ソーシャルワーカーに求められた役割の実体験から、受援体制の構築につながる平時からの備えの重要性を導き出した。

地域包括ケアシステムの構築については、日頃のソーシャルワークの実践が、地域医療保健・福祉の充実に寄与するものであり、ひいてはそれらが減災・防災につながることで、さらに災害時の対応・復旧・復興の一助となり、いのちと健康、そして尊厳を守ることにつながるという視点に達した。

以上を踏まえ、「地域包括ケアを通じた災害に強い地域づくり」「被災後の生活再建に係る制度と知識の備え」「平時からの災害を想定した地域への関りや組織・業務の形成」を礎に、今後も両プロジェクトの活動を連動させながら、赤十字医療ソーシャルワーカーとしての資質を高め、平時の地域包括ケアの実践と、被災地支援に派遣できる医療ソーシャルワーカーの育成を進めていく。

主宰：全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会

形式：シンポジウム(120分)

招待シンポジスト：本社 救護・福祉部長 軽部 真和

シンポジスト：仙台赤十字病院 医療社会事業係長 広瀬 和之

多可赤十字病院 地域医療連携係長 遠藤 由佳

コメンテーター：成田赤十字病院 医療社会事業課長 関 理枝子

座長：深谷赤十字病院 社会福祉課長 永井 薫

司会：長浜赤十字病院 医療社会事業課長 谷口 周作